

「本 'pon' de Paris」

～ 本でフランス・パリを旅しよう～

	図書名	著者	内容
1	パリ五輪とことん応援 BOOK 【6月27日以降展示予定】	TJMOOK	ついに始まるパリ五輪！注目の新競技に話題の選手など、テレビ観戦が楽しくなる情報や、競技についてしっかり学べる観戦ガイド、家族で中継を観ながら盛り上がるトリビアやウンチク情報を掲載。マニアや専門家のオススメも紹介します。さらに、その日に実施される競技がわかるスケジュール表も掲載し、誰もがパリ五輪をとことん応援できる一冊です。
2	なんてこった！ ざんねんなオリンピック物語	ウラケン・ ボルボックス	過去の五輪で実際に起こったトホホで笑える事件をはじめ、嘘のような本当の話、感動要素を織り交ぜたエピソードを集めたトリビア本。挿入エピソードは、「なんてこった！」なトホホ事件から、汗と涙の感動秘話まで、見開き完結で紹介。つい、友達にも話したくなる“うんちく”も満載なので、オリンピック雑学ならこの一冊で決まり！オリンピック観戦前後のお供にもぜひ。
3	パリでメシを食う。	川内有緒	三つ星レストランの厨房で働く料理人、オペラ座に漫画喫茶を開いた若夫婦、パリコレで活躍するスタイリスト。その他・規格外アーティスト、花屋、国連職員……パリに住み着いた日本人10人の軌跡。
4	パリの国連で夢を食う	川内有緒	チャンスを掴んだのは31歳の時。2年前に応募した国連から突然書類審査に合格との知らせが舞い込んだ。2000倍の倍率を勝ち抜き、いざパリへ。世界一のお役所のガチガチな官僚機構とカオスな組織運営にビックリしながら、世界中から集まる野性味あふれる愉快的な同僚達と、個性的な生き方をする友人らに囲まれて過ごした5年半の痛快パリ滞在記。
5	南仏プロヴァンスの12か月	ピーター・ メール	オリーブが繁り、ラヴェンダーが薫る豊かな自然。多彩な料理、個性的な人々。至福の体験を綴った珠玉のエッセイ。英国紀行文学賞受賞の大ベストセラー。BBCがTV化。NHKで放送。
6	パリの空の下で、 息子とぼくの3000日	辻仁成	ぼくが離婚をしたのは息子が10歳になったばかりの年だった。本書は14歳の頃からスタートするが、回想するように、息子が10歳だった当時に遡ることもある。小学生が大学生になるまでの間の父子の心の旅の記録である。
7	不便でも気にしないフランス人、 便利なのに不安な日本人	西村・ プペ・カリン	恋愛、結婚、セックスから、ファッション、育児、お金、さらには働き方、コンビニ、政治に、ロボットまで……。日本人マンガ家(じゃんぼゝる西)と結婚したフランス人ママ記者(AFP通信社)の鋭い指摘とユーモアあふれる日仏比較エッセイ。
8	巴里の空の下オムレツの においは流れる	石井好子	長年日本のシャンソン界を牽引してきた石井好子さんが、1950年代に留学したパリなど、外国での出来事を綴ったエッセイ集です。数々のおいしい料理との出会いを読み進むと、その料理の香りや情景が浮かび上がってきます。石井さんが大好きなオムレツなどの作り方も披露されています。軽妙な文章で、刊行から半世紀が経った今でも愛され続けている「おいしいエッセイ」です。装釘やカットは、花森安治が出がけたものです。
9	巴里の空の下オムレツの においは流れる レシピ版	石井好子	初版発行以来今まで、長く愛され続けている、日本で初めての料理エッセイ『巴里の空の下オムレツのにおいは流れる』(暮しの手帖社刊)。その初のレシピ本です。読んでいただけでも食べてみたくなるようなレシピが、80以上も紹介されている。そのエッセイの中から、特に食べてみたくなる料理を、35レシピ以上をセレクトして、忠実に再現して、新たな書き下ろしと共に紹介しています。
10	パリのカフェをつくった人々	玉村豊男	芸術の都パリに欠かせない役割をはたし、今もフランス文化の一面を象徴するカフェ、ブラスリー(居酒屋)。その発生をたどってみれば、意外にも地方出身者の出稼ぎ商法だった。フランス通のグルメエッセイストで、みずから農園を営む著者が「フランス出稼ぎ人」のルーツを求めて徹底取材。

「本 'pon' de Paris」

～ 本でフランス・パリを旅しよう～

	図書名	著者	内容
11	フランス人女性は太らない	ミレイユ・ジュリアーノ	フランス重視で毎日3食、栄養あるものを適量、心から味わって食べる。そして楽しく歩き、階段を上るなど、ちょっとずつ動く。フランス女性の優雅な健康生活とは？ 全世界で300万部のベストセラー待望の文庫化。 著者はフランス人で、LVMH傘下のヴーヴ・クリコ社米国現地法人元CEO。フランス女性の知恵を、ウィットに富んだエピソードや具体的なレシピとともに紹介します。
12	フランス人は10着しか服を持たない	ジェニファー・L・スコット	パリのマダムが教える上質な生き方。満足いく食事のために間食しない、ワードローブは10着、ミステリアスになる、教養を高める…
13	映画で歩くパリ	佐藤久理子	パリ20区を地域別に、各区を舞台にした名作映画(フランス映画だけでなく、パリが舞台のアメリカ映画も)を取り上げ、そのスポットを映画解説とトリビア的なエピソードを交えて紹介。 「いつか観た映画の一場面に出ていたあの場所を訪れてみたい」という読者の欲求に叶うガイドであると同時に、作品についても詳しくなれる。
14	お菓子がたどるフランス史	池上俊一	世界一の国になるには、素敵なお菓子が欠かせない！と考え、その甘い武器を磨いてきた国、フランス。ジャンヌ・ダルクやマリー・アントワネットが食べたのはどんなお菓子？ 歴史を変えた伝説のパティシエとは？ あの文豪もスイーツ男子だった？ お菓子の由来も盛りだくさん！ 歴史もしっかり学べる、華麗であま〜いフランス史。
15	嫁はフランス人	じゃんぼーる西	愛が大事なフランス人×“愛が苦手”な日本男子のイクメン奮闘記!! 授乳もオムツ替えも得意な夫。そんな彼が唯一慣れなかったものは...? フランス人の妻を持つ著者が描く、爆笑必至のイクメン・エッセイ! 語学誌で連載中の『フランス語っぽい日々』のほか
16	嫁はフランス人 2	じゃんぼーる西	子供への愛・恋人への愛。愛は同じでも愛の表現が違う！フランスと出会って人生が激変した草食男子の物語。登場人物=じゃんぼーる西・フランスと出会って人生が180度変わった草食男子。漫画家。妻 カレン・日経新聞で日本語を覚えた。フランス人ジャーナリスト。七央(なお)・息子。父親は母親の言っていることを(仏語)をわかってねえなと思い始めた。日本とフランス、同じ子育てでも全然違う？
17	PARIS MANIAQUE 寝ても覚めてもパリが好き	Huitres	本書ではパリが好きで何回も旅行に行ったり、留学や仕事で住んでいた人たちに取材をし、「本当に好きだからこそ知っているパリの魅力」についてたっぷり語ってもらいました。 以下、本書にご協力いただいたパリマニア21人をご紹介します。
18	パリ歴史散歩 メトロにのって 【6月27日以降展示予定】	ロラン・ドゥッチ	山手線の内側ほどの広さしかないパリでは、メトロ(地下鉄)が主な移動手段。その、メトロの駅名にまつわる歴史的な由来を、フランスの新進俳優ロラン・ドゥッチが愛着を持って情感たっぷりに書き綴ったのが本書です。歴史の中にダイブし、古い時代の人々や町並がありありと目に浮かぶような丁寧な筆致が、多くの読者の共感をよび、フランスで50万部のベストセラーとなりました。

「本 'pon' de Paris」

～ 本でフランス・パリを旅しよう～

	図書名	著者	内容
21	原田マハの印象派物語	原田マハ	光満ちあふれ、幸福な色をたたえる名画誕生の陰には、画家たちの壮絶な闘いのドラマがあった。貧しくても、どん底に落ちてても、志高く新しい道を切り拓いていったそのあしあとをたどって、アート小説の名手が紡ぐ、7つの物語。モネの愛したノルマンディーへの旅も。
22	パリ行ったことないの	山内マリコ	パリに行けば、自分が見つかるの？ あゆこは『フィガロジャポン』を10年も定期購読しているのに、パリに行ったことがない。人生に臆病なまま35歳を迎えたある日、まぼろしの映画『ディディーヌ』に魅せられて、ついにフランス行きを決意する——。 『フィガロジャポン』好評連載に書き下ろし「わたしはエトランゼ」をあわせて完結。すべての女性に贈る、10人の物語。
23	パリわずらい江戸わずらい	浅田次郎	パリに隠遁を考えるも「三度三度の白いご飯がいっぱい食べられぬ」と考え、あえなく断念した著者のJAL機内誌連載の人気エッセイ第三弾。マイケル・ジャクソンとの二度の邂逅を描いた「袖ふりあうも多生の縁」、軽井沢の山荘でイノシシ親子と出会ったときめきと怒りを込めた「招かざる客」など旅にまるわるお話や、浅田さんらしい視点の深さと江戸っ子らしい男気で書き綴られている。全40編。
24	オレンジの壺(上・下)	宮本輝	祖父の日記帳を見て佐和子はパリへ旅立つ！平凡な生活をしてきた25歳の女性の「生き方」を変えた祖父の日記帳。驚くことに、彼にはパリで生ませた娘がいた！東京からパリへ、追跡長編小説の決定版
25	その女アレックス	ピエール・ルメートル	ピエール・ルメートルが放つ傑作ミステリ、カミーユ警部シリーズの三部作 異様な手口で惨殺された二人の女。カミーユ・ヴェルーヴェン警部は部下たちと捜査を開始するが、やがて第二の事件が発生。カミーユは事件の恐るべき共通点を発見する……。ミステリ賞4冠に輝く衝撃作。あまりに悪意に満ちた犯罪計画——あなたも犯人の悪意から逃れられない。
26	悲しみのイレーヌ	ピエール・ルメートル	ピエール・ルメートルが放つ傑作ミステリ、カミーユ警部シリーズの三部作 おまえが死ぬのを見たい——男はそう言ってアレックスを監禁した。檻に幽閉され、衰弱した彼女は、死を目前に脱出を図るが……。しかし、ここまでは序章にすぎない。孤独な女アレックスの壮絶なる秘密が明かされるや、物語は大逆転を繰り返す、最後に待ち受ける慟哭と驚愕へと突進するのだ。
27	傷だらけのカミーユ	ピエール・ルメートル	ピエール・ルメートルが放つ傑作ミステリ、カミーユ警部シリーズの三部作 カミーユ警部の恋人が強盗に襲われ、瀕死の重傷を負った。一命をとりとめた彼女を執拗に狙う犯人。もう二度と愛する者を失いたくない。カミーユは彼女との関係を隠し、残忍な強盗の正体を追う。
28	パリのアパルトマン	ギヨーム・ミュツソ	急死した天才画家が遺作に託した驚愕の真実とは!?『ブルックリンの少女』の著者ギヨーム・ミュツソが放つ待望の新作ミステリー！
29	移動祝祭日	アーネスト・ヘミングウェイ	もし幸運にも、若者の頃、パリで暮らすことができたなら、その後の人生をどこですごそうとも、パリはついてくる。パリは移動祝祭日だからだ。——アーネスト・ヘミングウェイ 海外名作新訳コレクション。晩年の文豪がパリでの青春を回想する。